

## センター試験当日までに確認しておきたいこと

### センター試験の主な注意点【理科】

センター試験においては、特に理科は、科目の選択方法が複雑なため、注意が必要だ。

科目構成については、物理、化学、生物、地学4領域からそれぞれ基礎を付した科目(以下、基礎科目)と、基礎を付さない科目(以下、専門科目)が計8科目出題され、基礎科目が理科①、専門科目が理科②と別々の時間帯で実施される。試験時間と配点は、理科①が60分で2科目(計100点)、理科②が1科目選択の場合は60分(100点)、2科目選択の場合は130分(うち解答時間120分、計200点)となる。

受験生は事前に申請したA～Dの4パターンのいずれかを受験し、試験当日に科目選択方法・受験科目数を変更することはできない。理科①、理科②内で出題科目からどれを受験するかは決めることができる。

#### センター試験 理科出題科目と選択方法

グループ	出題科目	配点(試験時間)	科目選択方法
理科①	物理基礎 化学基礎 生物基礎 地学基礎	2科目100点 (60分)	以下4パターンから選択 A: 理科①から2科目 B: 理科②から1科目 C: 理科①から2科目及び 理科②から1科目 D: 理科②から2科目
理科②	物理 化学 生物 地学	1科目100点 (60分) 2科目200点 (130分)	

\* 大学入試センター資料。

\* 理科①は1科目のみの受験は不可。

### 各大学のセンター試験理科の受験パターン

国公立大のセンター試験理科の科目選択受験パターンと指定状況は以下の通りである。

科目選択パターン	
A 基礎2科目受験	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の4科目から2科目を選択。
B 専門1科目受験	「物理」「化学」「生物」「地学」の4科目から1科目を選択。
C 基礎2科目＋専門1科目受験	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の4科目から2科目並びに「物理」「化学」「生物」「地学」の4科目から1科目を選択。
D 専門2科目受験	「物理」「化学」「生物」「地学」の4科目から2科目を選択。

#### 【指定状況】

理科の科目選択受験パターンの指定は、文系学部と理系学部とで概ね傾向が分かっている。どの科目を選択するかは、志望校のみならず、受験する可能性があるかもしれない大学まで視野にいれて、入学者選抜要項や学生募集要項等で入試科目をしっかりと確認する必要がある。

#### 文系学部

文系学部は、ほとんどが「基礎2科目(A)」となっている。または「専門1科目(B)」の選択も認められていることもある。

#### 理系学部

理系学部は、ほとんどが「専門2科目(D)」となっている。または「基礎2科目＋専門1科目(C)」の選択も認められていることもある。

また、基礎科目と専門科目とで同一名称科目を組み合わせさせた選択を認めるかどうかは、各大学で判断が分かれているため、あらかじめ確認しておきたい。(同一名称科目の組み合わせ例「物理基礎」と「物理」など)

#### 保健衛生系統(看護など)、食物・栄養学系統

これらの系統は、大学によって理科の受験パターンが異なるため注意が必要。受験する可能性のある大学がどの科目選択受験パターンになっているのかは早めに確認をしておきたい。

### 「地理歴史・公民」、「理科②」の2科目受験の注意点

地理歴史・公民、並びに理科②において、2科目を受験する場合、(受験者本人の解答順に)前半60分で解答する科目を「第1解答科目」、後半60分で解答する科目を「第2解答科目」と呼んでいる。解答用紙は前半、後半でそれぞれ1枚ずつ配布される。

1科目の成績のみを合否判定に利用する大学で2科目選択して受験した場合、合否判定では、第1解答科目の成績を利用する大学と、高得点の科目の成績を利用する大学がある。

どの順番で解答するかはセンター試験当日に決められるが、志望校が特定の科目を設定している場合は、それに従って受験しないと2次試験の受験資格を失ってしまうことがある。例えば、A学科では、理科で必須となっている「物理」が第1解答科目で受験するよう指定されている場合がある。この場合、他大学の受験の可能性も考え、理科②で2科目を受験、うっかり第1解答科目「化学」、第2解答科目「物理」の順に受験してしまうとA学科の2次試験の受験資格を失ってしまう。(この場合は、「物理」、「化学」の順に受験しなければならない。)

その他のセンター試験情報は、

『データネットホームページ』に掲載しています。

データネット 2018

検索